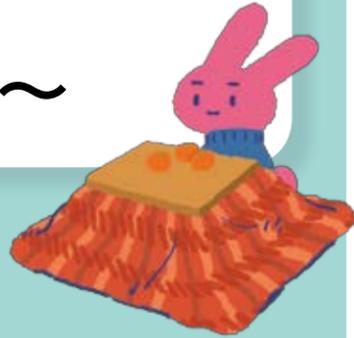


1

特集 多様な場面で行われる循環器疾患の緩和ケア

緩和ケアの基本 ～がんの緩和ケアから多様な プロセスを踏む 循環器疾患への応用～



細矢美紀 (国立がん研究センターがん対策情報センター, がん看護専門看護師)

point

- 緩和ケアとは、生命を脅かす疾患による苦痛を持つ患者さんと家族の quality of life (QOL) を向上するためのアプローチである！
- 患者さんと家族の思いを引き出し、寄り添うためのコミュニケーションスキルが大切！

はじめに

がん領域の緩和ケアは他の疾患よりも浸透しているといわれます。本章では、その歴史や浸透した道のりをお示します。また、多様なプロセスを

踏む循環器疾患に応用できる緩和ケアの基本的知識や技術をお伝えします。

緩和ケアの歴史と緩和ケアの基本

緩和ケアは、11世紀の十字軍遠征による傷病者や巡礼者の安息所であった初期ホスピスから始まります。そして現代の緩和ケアは、1967年にシシリー・ソンドース (Cicely Saunders) 女史 (メモ1) が英国ロンドンに設立したセント・クリストファー・ホスピスから始まります。シシリー・ソンドースは、苦しみには身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな要素があり、これらが互いに影響し合い、全体として苦しみを形成するという全人的苦痛 (図1)¹⁾ という概念を提唱しました (メモ2)。この概念は広く受け入れられ、1990年

の世界保健機関 (WHO) の緩和ケアの定義 (図2)、2002年の定義の改訂 (表1)²⁾ につながっていき

メモ1 シシリー・ソンドース (1918～2005年)
看護師、ソーシャルワーカーを経て39歳で医師となりました。医療用麻薬を定期的に経口投与する鎮痛法を広めたことでも知られています。

メモ2 身体的苦痛
図1の身体的苦痛の「痛み」には、疾患に起因する痛み、治療に伴う痛み、闘病生活に伴う痛みなどがあります。

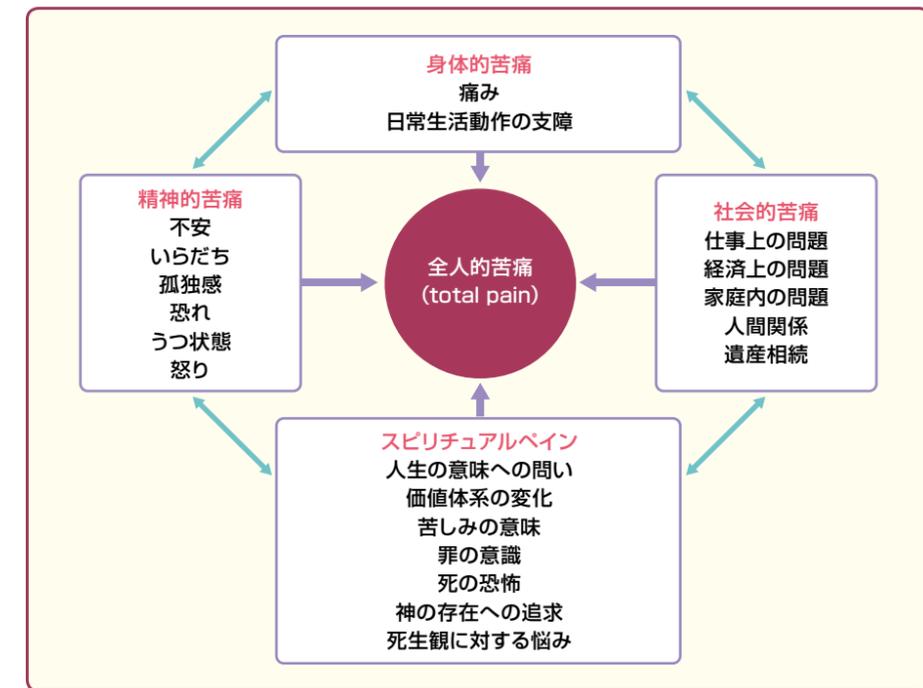


図1 全人的苦痛 (トータルペイン) (文献1より引用)



図2 がん治療と緩和ケア